

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差									
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
令和12年度の目標	+1.2	+1.5	+2.7	令和12年度の目標									
令和11年度の目標	+0.9	+1.2	+2.1	令和11年度の目標									
令和10年度の目標	+0.6	+0.9	+1.5	令和10年度の目標									
令和9年度の目標	+0.3	+0.6	+0.9	令和9年度の目標									
令和8年度の目標	0	+0.3	+0.3	令和8年度の目標	0	0	0	+2	0	0	0	+0.5	
令和7年度の結果	-0.8	0	-0.8	令和7年度の結果	-9.1	-10.9	-0.9	+2	-3.8	-0.2	-1.1	0	
令和6年度の結果	-5.7	-4.4	-10.1	令和6年度の結果	-3.1	-1.2	-3.8	-5.9	+1.8	+0.1	-7.9	-9.6	
令和5年度の結果	-7.2	-5.5	-12.7	令和5年度の結果									

年度	令和7年度 成果と課題		令和8年度	
内容			目標	目標達成に向けた取組
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度に応じた学習内容や学習進度に応じた授業を展開し、第4学年以上でA層の児童の力を伸ばすことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の結果から、算数科では、「データの活用」の得点率が低かった。国語科では、文章を読んで心に残ったことその理由をまとめて書いたり、自分の考えを文章で表現したりする問題の得点率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が目的に応じて表やグラフに表したり、データの特徴や傾向を捉え、判断や考察ができる力を身に付けられるようにする。 児童が文章を読んだ際に、心に残ったことや自分の考えを文章で表現できたり、各学年に応じた語彙量を増やすとともに、授業や読書を通して言葉を知り、使ったりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科では、算数少人数担当が「データの活用」の内容を第1学年から第6学年までの系統を整理し提示することで、全教員が各学年の系統性を共通理解し指導することができるようにする。 算数科、社会科や理科、読書科等の各教科で表やグラフの読み取りについて繰り返し指導を行う。 第3学年までは、特に日記の指導に重点をおき、第4学年からは、よむYOMU ワークシートを効果的に活用する。特に、よむYOMUワークシートでは、事前事後の学習に取り組み、一人一人の児童の力を把握していく。 	
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル診断テストでは、正答率90%以上が、〇割である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科の書くことにおいて、書く量に個人差が大きい。 算数科では、絵グラフの数量と絵の対応理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「主語と述語」がそろった一文を書くことができる。 絵グラフを見て、『〇〇が一番多い』と言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「だれが、なにをした」を意識した一文指導の徹底を図り、生活経験をもとにした短文表現の積み重ねをする。 身近な事柄を数で比べる活動を重視し、絵グラフを用い、「多い・少ない」を言葉で表現できるようにする。 	
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル診断テストで年度当初と比べ、約5ポイント上昇している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科の読むことにおいて、問題文を最後まで正確に読むことができない児童も一定数いる。 算数科では、合計や差を求めるときに誤りをすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちを行動や言葉を根拠に説明できる。 表を見て合計や差を言葉で説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動や言葉から気持ちを考える読みを重視し、問いに合った箇所を本文から探す活動を継続する。 簡単な表を読み取り、合計や差を考えるとともに、数値を基にした比較を言葉で説明する活動を取り入れる。 	
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル診断テストで年度当初と比べ、約7ポイント上昇している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区の学力調査は、国語科「書くこと」の得点率が低く、指示語を指す内容がわからない時が少なくない。 区の学力調査は、算数科「測定」の領域で得点率が低く、数値から特徴を言葉で説明することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互の関係を意識し、伝えたいこと整理して文章を書くことができる。 身近な量について、適切な単位を用いて測定し、その結果を数値や言葉で表して比較・説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落構成を意識した説明文の指導と「問い⇔答え」の形で分かりやすく書く練習をする。 グラフを読み取り、特徴を一文で表す活動を多く取り入れ、比較の視点に明確にした考察活動をする。 	
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸川区学力調査の結果から国語科は、昨年度と比較し、A・B層の割合が、約3ポイント上昇した。また、算数科は、教科総合・基礎問題・応用問題のすべてにおいて全国平均より高かった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区の学力調査は、国語科「書くこと」で得点率が低く、根拠が曖昧なまま意見を書くことがある。 区の学力調査は、算数科「測定」領域で得点率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えについて、理由や根拠を示して文章で表すことができる。 単位や測り方の意味を理解し、測定結果を基に量の大きさを比較・説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にした意見文の基礎指導を徹底し、引用を意識した文章表現につなげる。 面積や角の測定について、操作活動を重視した指導を通して、単位の測り方や理解を深め、測定結果を根拠に説明する力を育成する。 	
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸川区学力調査の結果から国語科は、昨年度と比較し、A・B層の割合が、約4ポイント上昇した。また、算数科は、応用問題で全国平均より高かった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区の学力調査は、国語科「書くこと」「読むこと」では得点率が低く、要旨を自分の言葉でまとめられない。 区の学力調査は、算数科「数と計算」領域で、得点率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の要旨を捉え、筆者の考えを自分の言葉でまとめるとともに、構成を意識し、理由や根拠を明確にして自分の意見を書くことができる。 数の意味や関係を理解し、四則計算や割合の考えを用いて、数量関係を的確に捉え、筋道立てて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠と主張の対応を明確にする指導を行い、構成を意識した意見文や報告文を作成する。 小数・分数・整数の意味理解を土台に、計算の確実性を高める。 	
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸川区学力調査の結果から国語科は、応用問題で全校平均を超え、算数科は、教科総合の面で全国平均と同等であった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区の学力調査は、国語科「書くこと」では、得点率が低く、抽象度の高い文章理解が不十分である。 区の学力調査は、算数科「数と計算」領域では、データから結論を導く説明が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を基に、筋道を立てて説得力のある文章を書くことができる。 分数を含む四則計算を正確に行うことができ、数量関係を式、図、表を用いて表し、考えを整理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問いの意図を捉え、根拠を明確にして答える活動を重視する。 課題解決学習を通して、どの代表値を用いるべきかを考えさせる場面を意図的に設定する。 	